

テーマ：子どもが話したくなる聞き方

ねらい

子どもの話の聞き方について、子どもが話したくなる受容的な聞き方を練習することにより、これまでの自分の態度を振り返り、これからの子どもとの接し方を考える。

時間	主な活動	留意点
2	<p>【はじめに】</p> <p>わが子がつらい思いをしている時、真っ先に話してほしいものです。嬉しいこともつらいことも、どんなことでも話してくれる子に育てるには、ちょっとしたコツが必要です。今日は、『子どもが話したくなる聞き方』について練習してみましょう。</p>	
5	<p>【アイスブレイク】</p> <p>①アドジャン (2分間)</p> <p>準備物：時計(リーダー)</p>	<p>①「アドジャン」の声で1～5本の指を出し、あいこになったら握手をして次の相手を探し、終了時にペアになっている相手と2人組になって座ってもらう。</p>
20	<p>【アクティビティ】</p> <p>①困っている子どもの話をどのように聞くか、ロールプレイをする。(2人組)</p> <p>準備物：ワークシート、時計(リーダー)</p> <p>1)タイプ1の聞き方を演じる。(1人3分で交代)</p> <p>2)タイプ2の聞き方を演じる。(1人3分で交代)</p> <p>3)2つのタイプの話し手を演じてどう感じたか、4人組になって自由に話す。(5分)</p>	<p>①ワークシート枠内の場面設定を読み上げ、タイプごとにリーダーが親役の聞き方を演じて見せる。2つのタイプとも、親役と子ども役の両方を演じられるように交替させる。子ども役の気持ちを語ることで、聞き方によって話しやすさが変わることに気づかせる。</p>
15	<p>②「子育てで最近ちょっと気になること」を2人組で聞き合う。(1人5分で交代)その後、話を聞いてもらい感じたことを伝え合う。(3分)</p>	<p>②全体の場でワークシートの【聞き方のポイント】を確認してから、2人組で聞き合ってもらおう。</p>
5	<p>【ふりかえり】</p> <p>①今日のワークショップで感じたこと、気付いたことを4人組になって話し合う。</p> <p>②全体で発表する。</p>	<p>①まずグループ内で、感じたことを伝え合い、全体の場で共有するようにする。(全体での発表は強制しない。)</p>
3	<p>【まとめ】</p> <p>子どもたちが「話したい」と思うのは、私たち親がどんな聞き方をするかで決まります。困らないようにいろいろとアドバイスをしがちですが、まずは子どもの話をしっかり聞くことです。そして「つらかったね」「よく我慢したね」と子どもの気持ちに寄り添う言葉をかけてあげましょう。</p> <p>「話してよかった」と思う経験が「何でも話してくれる子」を育てます。</p>	